～市長が語る～「わがまちの今・これから」主な質疑応答の要旨

日　時：平成２９年５月１７日（水）１８：３０～２０：１５
場　所：長浦公民館　研修室
出席者：副市長、企画財政部長、企画課長、財政課長、秘書広報課長　他
参加者：６８名（男性５８名・女性１０名）

【市長説明項目】
第１部　わがまちの「今」
第２部　わがまちの「これから」

【主な質疑応答の要旨】
参加者：高齢者の中では、事故の心配などにより免許を返納する人が増えていますが、それに伴い、日常の移動が困難となる人の増加が考えられます。公共交通の面からも、市はどのような対策を考えていますか。

部長：市内公共交通の充実の検討についてですが、買い物や通院の不便など、いろいろなケースがあるので、路線バスやタクシーを増やすことも検討しますが、単に増やすのではなく、それぞれの問題点を踏まえ、総合的に検討していきたいと思います。

参加者：学習支援については、人を雇って支援をするのか、具体的な形を教えてください。

部長：学習支援については、生活困難で塾に通うことができない家庭を対象としたもので、宿題や、他の学習支援を行う無料の塾のようなもので、親へのアドバイス等も行います。現在、担当部で細かい仕組みについて考えているところで、８月くらいにはスタートしたいと思っています。この事業については、生活困窮者が対象ということから、大きく報じることには利用者への配慮が必要となる部分があります。

参加者：小規模開発が進み、若い世代が入ってきています。木更津市や君津市ではみられることですが、子どもの数が減り、人口の空洞化が起きています。椎の森工業団地が完成して、子どもの世代が就職したとしても、人口減少は進むと思います。まちづくりと人口減少対策をどのようにリンクさせて考えているのでしょうか。

部長：まちづくりは、総合計画を作って進めてきましたが、今後はどうするのかという課題があります。新たに市街地ができても、数十年で空洞化となる懸念がありますし、雇用の場の創設はできても、全ての方を雇うことはできません。大きな状況の変化が考えられる人口減少社会のなか、袖ケ浦市の人口は１０年位は微増傾向にありますが、その後の維持は困難です。平成３２年度以降、新たな総合計画を作りますが、少子高齢化や人口推移等を考えまちづくりをどのようにするのかを考えなくてはいけません。市民の皆様からの意見を聞き、今後十分に検討したいと思います。

副市長：高齢化や人口の空洞化は問題です。袖ケ浦市はその面積からもコンパクトシティと言われていますが、空き家等が現実的な課題となっています。長浦地区でも、３０年ほど前にマイホームを求め入居し、今では高齢化やリタイヤする方が多く、２世代での居住が難しい状態です。袖ケ浦市では住宅が売りに出されれば買い手がつく状況ですが、人口減少が進む中、新たな市街化はなかなか難しいところがありますので、内陸部や旧市街地の土地利用の在り方など、人口をにらんだ計画の検討が必要です。